【宝塚第一中学校】 宝塚市立中学校 いじめ再発防止行動計画

		基本方針		取組						実	施	時	期					
柱	方向性	取組内容	目指す姿	具体的行動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	中期	長期
	子どもた ちがSO Sを出い 境をいっつ ります	相談することの大切 さを子どもたちに伝 える出前授業を行い ます	いじめを受けたり、い じめを発見したりした 場合、および友達から いじめの相談を受けた 場合に、家族、学校ま たは関係機関に相談で きる生徒	生徒を対象としたSCによる出前授業を年 1回実施する。				0									継続	継続
	子どもを	本事案から学ぶ全員研修を実施します	専門講師による研修を 通して、いじめ問題へ の学びを深め、生徒を いじめから守る体制づ くりを進める教職員	令和2年度は、市指導主事と学校による研修会を実施済。 専門講師による調査報告書を基にした研修 会を実施し、いじめ対策に関する多様な情報を共有、活用する。													2年目以 降は市教 委と検討	2年目以 降は市教 委と検討
1 子 ど	深く理解 する力を 育てます	子どもに共感し、対 等な関係を築く資質 を養います	生徒の声を大切にし、 言動の裏側にある思い をつかみ支援できる教 職員	SCによる年2回以上のカウンセリングマインド研修を実施する。					0					\circ			継続	内容を検 証の上で 継続
も の S		1.5	特別支援教育の知見に 立って支援できる教職 員	毎月1回、特別に配慮のいる児童について の情報共有を実施する。	\circ		\circ	\bigcirc	\bigcirc		\bigcirc	\bigcirc	\circ	\circ	\bigcirc		継続 専門家に よる研修 を検討	継続 専門家に よる研修 を検討
OSに気づく力			いじめの定義を正確に 理解し、生徒、保護者 および地域住民に啓発 する教職員	令和2年度は、市教育委員会作成のリーフレットを各学級で配布し説明する。併せて、地域の会でも説明する。 令和3年度は、各学期に1回程度いじめについて全校集会で話をするとともに、地域の会でも説明する。	\bigcirc			0		0			0	0			継続	継続
刀を高めま	いじめを	いじめ防止月間を設けます	主体的に全校でいじめ 根絶に向けた活動に取 り組む生徒	令和2年度は、月間の周知を行う。 令和3年度以降は、生徒会を中心により良 い人間関係をつくるための取組内容を検討 し実施する。									0				生徒によ る提案を 定着させ る	生徒によ る提案を 定着させ る
र्क च	早期、速適応が対す		調査結果を基に生徒の 思いを聴き取り、生徒 の状況の把握に努め、 いじめの早期発見、解 決を図る教職員	1 学期は「こころとからだのアンケート」を実施し、2・3 学期はいじめに特化したアンケートを実施する。			0					0			0		継続	継続
		教職員かがいじめに ついての情報を共有 し、チームで対応す る仕組みを整えます	校内いじめ防止委員会 を中心に教職員全体で 情報・指導方針を共有 し、問題の解決を図る 教職員	校内いじめ防止委員会で初期対応するチームを設置する。 校内いじめ防止委員会を週1回の定例実施と事案検討として適宜実施する。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	継続	継続

基本方針				取組						実	施	時	期					
柱	方向性	取組内容	目指す姿	具体的行動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	中期	長期
		いじめ等に関する情報について保護者との連絡を迅速に行い、情報を共有します	事実内容、指導方針、 支援等について適時適 切に保護者に伝え、事 案の解決を図る教職員	校内いじめ防止委員会で共通理解を図る。	0	0	\circ	0	\circ	0	\circ	0	\circ	0	\circ	\circ	継続	継続
2 子どもの主	子どもの 主体性を 育む授業 へ転換し ます	主体的・対話的で深い学びへ	学びの過程を大切に し、生徒の存在や意見 が尊重される授業づく りを推進する教職員	コミュニケーション能力を育成し、協働し て学び合う授業づくりをめざした校内授業 研究を実施する。			\circ					\circ					継続	継続
	子どもが 参画する 学校づく りを行い ます	学校行事は子ども主 体で行います	感動のある学校づくり を担う一員として活動 する中で 自己有用感を もち、自己肯定感を高 める生徒	生徒会で行事の内容や校則の見直し等について話し合い、生徒が学校運営に参画する。	\circ	0	0	0	\bigcirc	0	0	0	0	0	\circ	0	継続	継続
一体性を育	児童会・ 生徒会を 活性化し ます	サミットで学校間交 流を図ります	各校での様々な取組み を参考にして、自校に 適した具体的な取組み を模索、実施する生徒	市で行う児童会・生徒会サミットに参加 し、意見交換を行い、自校の取り組みに活 かす。					\circ	0							継続	継続
てます	子どもへ のエンパ ワメント を促進し ます	自殺予防教育を行います	生涯を通じて心の危機 に直面した場合の対処 スキルを身に付けた生 徒	生徒を対象とした自殺予防につながる教育 プログラムの授業を実施し、成果と課題を つかむ。				\bigcirc			0						継続	継続
		いじめ防止教育につ ながるゲストティー チャーの授業を行い ます	人権を守ることの重要 性について理解を深め る生徒	弁護士、警察官、大学教授など人権に関す る講師による出前授業を生徒対象に実施す る。				\bigcirc			0						継続	継続
		宝塚市部活動ガイド ラインの徹底を図り ます	部活動の意義や目的を 認識し、より安全で充 実を目指した目標のも と生徒のいきいきとし た姿を育む教職員	的を 年度当初にガイドラインの内容について校 で充 内で研修を行うとともに適宜生徒と顧問が のも ガイドラインの内容を確認する。	0	\circ	0	0	0	0	0	0	0	0	継続	継続		
3部活動を改革します	部活動の あり方を 見直しま す	顧問は、部全体の目標を踏まえ生徒の人ひとりに合った日標設定を支援し、各生徒がその目標を達成することをサポートする姿勢で部活動指導に臨みます	一つの部活動内での閉 鎖的な取組ではなく常 に全体での情報共有、 共通認識のもと部活動 を運営する教職員	職員会や顧問会等を通して、生徒のサポートをふまえた部活動のあり方について教職員の共通理解を図る。 部活動の問題を生徒指導委員会や学年会等との連携を図り、情報を共有する。	0	0	\bigcirc	\bigcirc	0	0	0	0	0	0	0	0	継続	継続
	生徒が主体となっ	容を生徒と顧問が話	部活動運営に主体的に 取り組む生徒とそれを サポートする教職員	各部長と教員が意見交換や学校全体の約束などについて共通理解する場(部長会等)を設ける。	0					0				0			継続	継続

		基本方針		取組						実	施	時	期					
柱	方向性	取組内容	目指す姿	具体的行動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	中期	長期
	た 部活動 の 運営を 行います	生徒一人ひとりの悩 みや疑問を尊重しま す		面談やアンケートを通して、生徒一人一人 の悩みや疑問を把握し、対応する。			0					\circ			0		継続	継続
		丁寧なミーティング を行います	生徒の主体性を尊重し ながら共通理解を図る 教職員	生徒と顧問が対等で建設的な関係でのミー ティングを行う。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	継続	継続
4チーム学校で取り組みます	学校の組 織対応力 を向上さ	教師がSOSを出せ る教師集団を作りま す	全校体制で意識や取組 の方向性を同じくし、 一枚岩の組織となって 取り組む教職員	教職員一人一人が声かけを意識して、あらゆる場面で年齢や経験、学年等の枠を超えて話し合い、意見の言える風土をつくる。	0	\circ	\circ	0	0	0	\circ	0	\circ	\circ	\circ	0	継続	継続
	せます	多職種連携を推進します	SC・SSW・関係機 関等と迅速、円滑に連 携する学校	ケース会議や相談など適宜SC・SSW・ 関係機関等との連携を図る。	\circ	\circ	0	\circ	0	0	0	0	\circ	0	\circ	0	継続	継続
	子どもを	地域ぐるみで子ども を見守ります	地域との連携・協働を 積極的に進め、子ども たちの成長を地域と分 かち合う学校	学校連宮協議会(コミュニティスクール) 、 青少年育成市民会議等により学校の情報を かの成長を地域と分 合う学校			0		継続	継続								
	育む地域 や関係機 関との連 携を行い ます	保育所・幼稚園・小 中学校の連携を強化 します	中学校区における目指 す子ども像の実現に向 けた教育の連携を推進 する保幼小中学校園所	小学校との部活・授業見学等の交流を進めていく。 小学校との入学に係る引継を充実させる。 市の連携会議等での情報を教職員で共有する。 保幼小中連携会議を実施し、情報共有を進		0		0		0			0	0			継続 オープン ジュニア ハイス クールを 実施	継続 オープン ジュニア ハールを クールを 実施
		関係機関との連携を 図ります	関係機関との迅速、円 滑な連携を行う学校	学校のケースについて常に家庭児童相談室 等の関係機関と連携を図る。	0	0	0	0	0	0	0	0	\circ	0	0	0	継続	継続
5 子 ど も	体罰を根絶します	体罰の禁止を徹底し ます	あらゆる場面での体罰 は絶対に許さず、人権 感覚豊かな指導を行う 教職員	体罰根絶宣言を学校通信や全校集会等で発表する。 体罰根絶に向けた共通理解を図る研修を実施する。	0				0					0			継続	継続
を根絶しますに対する体罰及びハラスメント	ハラスメ	部活動におけるパ ワーハラスメントを 根絶します	特に部活動がパワーハ ラスメントに陥りやす い環境であるとの認識 を持ち、体罰は絶対に 許さず、人権感覚豊か な指導を行う教職員	特に部活動などの事例を基に、パワーハラ スメント根絶に向けた共通理解を図る研修 を実施する。	0				0					0			継続	継続
	ントを根 絶します	あらゆるハラスメン トを根絶します	暴言・ハラスメントも 人権を侵害する行為で あり絶対に許されない ものである共通認識を 持ち、人権感覚豊かな 指導を行う教職員	パワーハラスメント根絶宣言を学校通信や 全校集会等で発表する。 パワーハラスメント根絶に向けた共通理解 を図る研修を実施する。	0				0					0			継続	継続